

第45回 獣医学セミナー

麻痺・痛みの画像診断 ～画像でどこまで診断できるのか？～

仲澤 宏 先生

(獣医外科学)

2013年 9月25日 (水)

17:00-18:00

農学部 6 番教室

「麻痺」「痛み」は脊髄の圧迫を伴う病変に多くみられる症状です。これらの症状を呈して、脳・脊髄の病変が疑われ、磁気共鳴画像(MRI)による診断を希望して山口大学動物医療センターに紹介されるケースはとて多くあります。椎間板ヘルニアが最も多く診断される疾患で、その他にも多くの診断がなされます。とりわけ、脊髄の圧迫・機能障害を引き起こす、「脊髄、脊椎の腫瘍性疾患」はその他の脊髄関連疾患と異なり、その診断で予後・治療法が異なるため、画像診断のみならずバイオプシーを含めた慎重な診断が必要となります。しかし、頑丈な椎骨に囲まれ、また、それ自体が損傷に弱い脊髄の近傍で低侵襲な方法によるバイオプシーは非常に困難で、手術によるバイオプシーが選択されるケースが多く、一方で、特徴的な画像から暫定診断できるケースも少ないながらもあります。本セミナーでは主に、様々な神経疾患のMR画像を解説しながら、当医療センターでの脊髄関連腫瘍の診断への取り組みを紹介します。

* 飲み物・おやつを用意しますので、気楽に御立ち寄りください。

連絡先 加納 聖 (5883) 清水 隆 (5895)